

東日本大震災

被災された皆さんに心からお見舞いを申し上げます



幸田町長
大須賀 一誠

このたびの東日本大震災により、亡くなられた皆さんに深い哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さんに心からお見舞いを申し上げます。1日も早い復興をお祈りします。幸田町におきましては、救援物資搬送、職員派遣など、被災地に対し県および近隣市町村や関係機関と協力しながら継続的な支援を行ってま

いります。町民の皆さんにおかれましても、支援活動にご理解ご協力を願ひ申し上げます。

幸田町は昭和20年の三河地震にて被災地となり、今も深溝断層が地表にあらわれ当時のようすを伝えています。東海・東南海・南海地震の発生が懸念されている私たちの地域も、明日は我が身となりえます。町では、阪神・淡路大震災を教訓とした地域防災計画の修正を随時行いながら、すべての避難場所の耐震化の完了、防災倉庫の増設に加え、水・食料の備蓄に努めています。

しかしながら、大震災においては「自分や家族の命は自分で守る」とことが基本といわれています。「備えあれば憂いなし」のことばの意味を各ご家庭内で、もう一度話し合い再確認をしていただきますようお願い申し上げます。

今回は東日本大震災の被災地に対する幸田町の支援への取り組みについて報告します。

東日本大震災の概要

平成23年3月11日午後2時46分に発生。震源地は太平洋三陸沖、牡鹿半島の東南東約130km付近、最大震度7、マグニチュードは日本観測史上最大の9.0、また地震の影響による津波で死者・行方不明者は約28,000人におよび、各地に甚大な被害をもたらしました。

町民に広がる被災者支援の輪

●駅前では…

幸田ボランティア連絡協議会、民生児童委員の皆さんで、JR幸田駅・三ヶ根駅で街頭募金活動が行われました。

●学校では…

児童・生徒が中心となって家庭や父母に呼び掛け、募金活動の取り組みが行われました。

●地域では…

地域の会合・集会の場で支援の声が上がり区・組を挙げて募金活動や多くの義援金が寄せられました。

●そして家庭でも…
家庭では、報道による被災地の状況

を目的にしたりし、自分たちで出来ることを考え行動に移そうと話し合う家庭が増えています。

幸田町では、3月14日から役場をはじめとした公共施設や社会福祉協議会に義援金箱を設置し、多くの町民の皆さんの協力により、4月10日現在で

義援金総額12,601,812円
お見舞い記帳750人

と多くの支援をいただいています。この義援金は日本赤十字社を通じて被災地に届けられます。



▲街頭募金活動の様子



深溝小学校▶

皆さんの気持ちがかもった 皆さんの支援物資

- 保存米飯…966食
- (乾燥米飯、缶詰米飯、パックご飯、レトルトご飯など)
- 乾パン…340缶
- 即席めん…733食
- ブルトップ式の缶詰…180缶
- 粉ミルク…46缶
- 紙オムツ…9,713枚
- 生理用品…6,455枚

3月28日集計

緊急消防援助隊の 派遣状況について

- 3月11日 地震発生
 - 3月13日 被災地、宮城県亘理郡(亘理町・山元町)での消火活動を行うため、緊急消防派遣隊(第3次消火部隊)として、本町第1次派遣隊(ポンプ車1台)4人を派遣
 - 3月17日 支援物資を被災地へ届けるため、緊急消防援助隊愛知隊(第5次後方支援部隊)として、本町第2次派遣隊(クレーン付資機材搬送車1台)2人を派遣
 - 3月23日 緊急消防援助隊愛知隊(第7次後方支援部隊)として、本町第3次派遣隊2人を派遣
 - 3月29日 緊急消防援助隊愛知隊(第9次後方支援部隊)として、本町第4次派遣隊2人を派遣
 - 4月7日 緊急消防援助隊愛知隊(第12次後方支援部隊)として、本町第5次派遣隊2人を派遣
- 町で集められた支援物資は県で取りまとめられて確実に宮城県の被災地まで運ばれています。



▲活動の様子

派遣消防隊員の声

実際の活動では情報量の無さにいら立ちさえ感じました。情報が入り乱れストレスがたまりました。地元の方は放射線汚染・津波の発生情報に大変神経質になっており、詳しい状況説明が必要でした。捜索活動は一向に減らなないがれきにより困難を極めました。

しかし、疲れた体や心を突き動かすエネルギーは現場の仲間たちでした。そして自宅が流された巨理町の職員、家族がいまだに行方不明になっている職員など、自分のことは二の次として勤務に就いている姿を見れば泣き言は言えませんでした。

私たちの力で台風や地震を防ぐことはできません。しかし、被害を軽減させることは可能です。1人でも多くの命を救うには、情報の収集を的確に行い、防災行政無線などを充実させ、情報を素早く正確に皆さんに伝えることが必要です。そして自分たちの町をよく知り、愛すること。これが幸田町全体の防災力の向上につながると思います。

幸田町職員を派遣しました

4月7日、被災地である宮城県多賀城市と塩竈市に幸田町職員2人を派遣しました。



▲出発式の様子

幸田町は、「AJU自立の家」の協力のもと、平成17年から19年において、実践災害対策対応研修会において、避難所のタンボール間仕切りの組み立て設置の訓練を実施しました。

今回、支援先の両市から小学校入学式による体育館開放のため新たな避難所施設への移動が緊急に必要となり、プライベート保護のため、間仕切りの設置要請がありました。この要請を「AJU自立の家」が受け、幸田町としても合同活動支援を実施することとなりました。

また、両市の災害対策本部から絶対数が不足しているとの情報を受けた物品（ブルーシート、缶詰、カップ麺など）についても併せて搬送することとなりました。なお、搬送用のトラック物品調達にあたっては東海陸運㈱幸田町商工会の協力をいただき合同被災地支援を実施することとなりました。なお、支援物資の間仕切りについてはこうした女性の会寄贈品であり、ご理解を得て提供しています。

また、人的支援として5月7日から、宮城県内町村に町職員を逐次追加派遣する予定です。

被災地で活躍する幸田町民

広報こうた平成23年月3月号でも紹介しました国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊員として活動された鷺田区（わづた）の林由美さんが被災地である宮城県石巻市へ派遣され、被災者支援活動を行いました。

林さんは石巻市渡波小学校の避難所へ炊き出し部隊として派遣されましたが、現状はテレビなどで報道されたとおりで、相当な被害を目の当たりにされたそうです。衛生面は想像以上に劣悪で、最初は体育館が土足だったため泥だらけで、まずは泥を落として避難所をきれいにする作業から始まりました。その後は、看護師・保健師での経験を生かし、医療スタッフ配属となり、お年寄りや体調を崩された人の看護、主に体調管理に関する活動をされました。

電気や水道、ライフラインについてはまだ回復しているとは言えず、物資についてもトラックで毎日運ばれて来ても物資に片寄りがあることから、引き続きの支援が必要とのことでした。



林 由美 さん

【今後の対応について】

●被災者受け入れのための生活支援

当面の日常品を持参することができずに愛知県に避難された被災者に対して、生活を始めるに当たって必要な生活支援品を配布します。

配布品目 愛知県災害救助用備蓄物資：毛布、マット（キャンプ用）、タオル、生活支援品セット（予定）：シャンプー、せっけん、台所用品、掃除・洗濯用品（世帯に1つ）食器類、タオル、歯みがきセット（家族人数分）

配布窓口 西三河県民事務所 *ただし配布は町の防災安全課において行います。

問合せ ☎0564-27-2705

●義援金箱の設置場所

役場、町民会館、町立図書館、町民プール、中央公民館、道の駅「筆柿の里・幸田」および社会福祉協議会で引き続き義援金の募集を行っていきます。

問合せ 福祉課福祉G（内線151）

今後も引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。